

「木工教室」開催

広野町立広野小学校4年生50人は7月14日と15日、講師にNPO法人福島県もりの案内人(相双地区支部長 柴田 猛)の方々を迎えて木工クラフト作りに取り組みました。

児童たちは、もりの案内人さんから、森や木の働きについて説明を受けた後、山から伐採してきた木の枝等を材料にエンピツのストラップ作り、アンパンマンの顔作りに挑戦しました。ナイフを使って簡単に仕上げられる作品に満足して1人で2~3作品作成していました。



◀4年1組の皆さん



◀4年2組の皆さん

▼広野FC佐藤悠選手(右端)先制点シーン



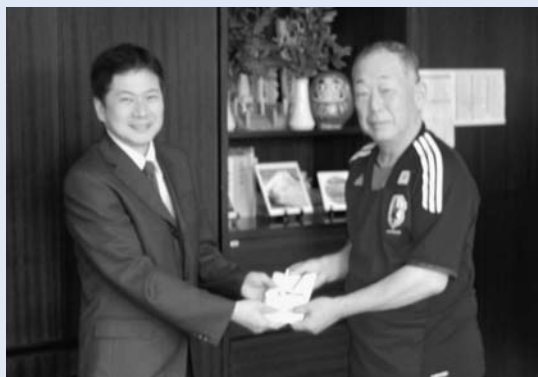
一丸になって掴んだ県大会

第63回福島県総合体育大会サッカー競技の相双地区予選が6月26日、石神第二小学校で行われました。広野町からは「広野SSS」が出場。2位で予選を通過し、11年ぶりの県大会への切符を手に入れました。

その県大会は7月24、25日に会津で行われ、出場したブロックで2位と健闘しましたが、惜しくも1位決定戦には進めませんでした。

大会に参加した選手は、「一丸になって掴んだ県大会だったので、この気持ちを忘れずにレベルアップしていきたい」と今後の抱負を語ってくれました。

ふるさと寄付金



▲小鹿山博之先生よりふるさと応援寄付金の目録が手渡される

7月6日、馬場医院院長 小鹿山博之先生より、町民の皆さん、そして小・中学校関係者の皆さんへのお礼の気持ちを込めて、ふるさと応援寄付金「200万円」が寄せられました。

なお、寄付金の使途につきましては、小・中学校の図書購入をはじめ、人材育成のため、使わせて頂きます。

*小鹿山先生からのメッセージです

馬場先生の診療所を継承させて頂いてから、早いもので10年が過ぎました。この間、広野町の皆様方には公私の両面に亘り大変お世話になりました。10年間、曲がりなりにも診療を続けてこられたのは皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。また、私の3人の子どもたちは、広野小学校、中学校で学ばせていただきました。三者三様の性格で、それぞれが、多くの先生方いろいろなご迷惑をおかけしてしまいました。今振り返っても冷や汗の出る思いですが、先生方からは、その都度、身内も及ばぬ親身のご指導を頂きました。この御恩に何とか報いなければと長年考えておりましたが、今春、末娘が中学校を無事卒業することができましたので、この機会にと思い、今回このような形でお礼をさせて頂くことに致しました。僅かばかりで申し訳ありませんが、何かのお役に立てて頂ければ幸いです。 馬場医院 小鹿山博之 拝

花いっぱい運動開催

「花いっぱい運動」が7月3日、ニッ沼総合公園や公共施設で開催され、15,000本の花の苗(サルビア、マリーゴールド)を町民の皆さんが植栽しました。参加した方は苗がすくすく育って公園が花でいっぱいになる日を楽しみに、移植べらで丁寧に土をかけていました。



▲苗を植える緑の少年団

法務大臣より委嘱状

根本衛さんに7月1日付けで法務大臣より人権擁護委員の委嘱状交付が行われました。

人権擁護委員は法務局における人権相談所を開設し、皆さんから人権相談に応じています。

また、小学校における「人権の花運動」、児童館における「子ども映画会」なども行っています。なお、根本賢仁さんと新妻富美子さんも法務大臣より、人権擁護委員として委嘱されています。



根本 衛さん

田の草とりを体験

広野小学校5年生50人は7月2日、田の草とりを体験、裸足で田に入り草の多さに驚きながらも、一本一本素手で除草していました。

除草の方法はこの他に農薬散布による除草、合鴨、あひるを利用した自然環境にやさしい除草方法などがあることの説明を受けると、児童からは広野町のあひるによる除草取り組み農家の戸数の質問がありました。

この体験学習は、総合学習事業の一環として、学校給食の地場農産物の活用について学ぶことを目的に毎年行われています。



▲稲の成長を願いながら田の草をとりました

まいたけ自然栽培 (埋め込み作業体験)

広野小学校6年生(緑の少年団)59人は7月14日、小学校横の松林で「まいたけ自然栽培(埋め込み作業)体験」を体験。児童たちは木樫の原木を袋詰めして種菌を接種、培養したものを1人ひとり受け取り、袋から取り出して床に並べ、スコップで土かけて埋め込み作業を行いました。

今回、広野小学校では、日本菌学会会員 鈴木正範さんの指導をうけて児童が木にふれ合い、自然の恵みや木の生命力を学び、森林を守り育てる意識の醸成を図ることを目的に町建設課産業グループと連携をとりながら行いました。

まいたけの発生は、9月中旬頃の予定です。



▲まいたけ自然栽培の様子